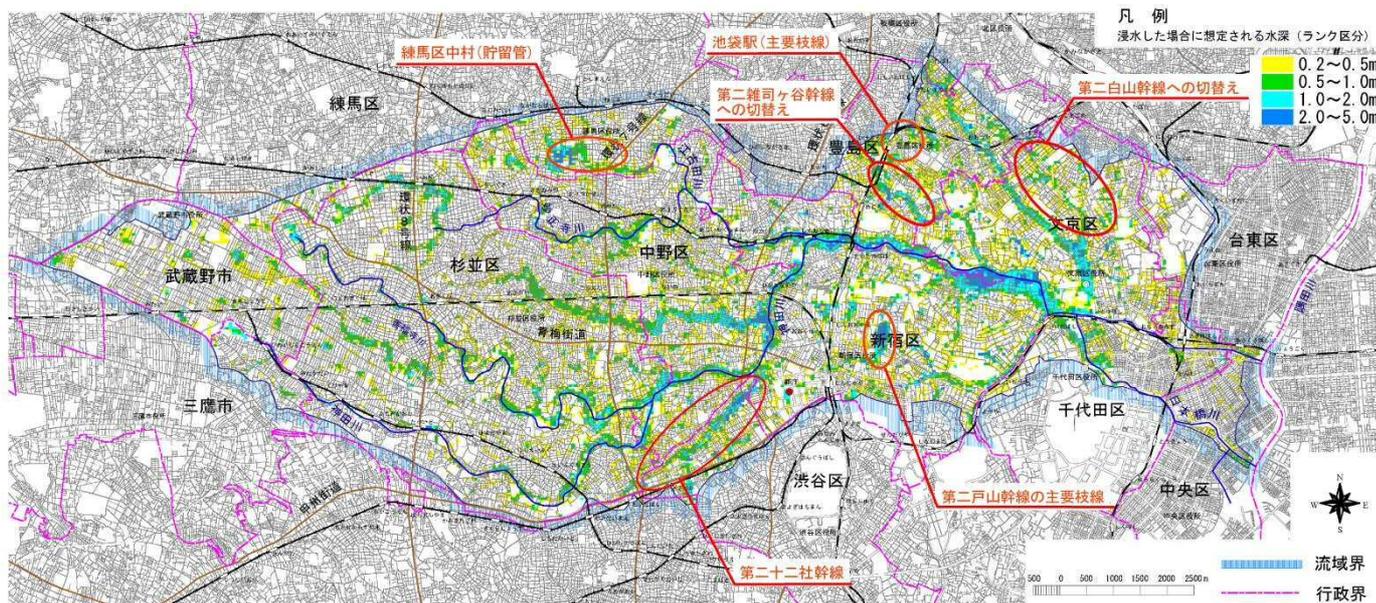


# 神田川流域浸水予想区域図

赤字：整備が進んだ施設の内容  
赤丸：浸水面積が減少している代表的な地域

【改定前】平成13年8月公表、平成15年7月一部修正  
対象降雨：東海豪雨(1時間114ミリ)



【改定後】平成30年3月公表  
対象降雨：想定最大規模降雨(1時間153ミリ)



改定前の浸水予想区域図は、平成14年度の施設状況を反映して作成し、改定図は平成28年度の施設状況を反映して作成しています。

この間、下水道では6つの幹線流域内(約1,000ha)での枝線の整備(切り替え)や約10万m<sup>3</sup>の貯留施設など多くの施設を整備しています。

赤丸で示す地域では、赤字の下水道施設を整備しており、浸水面積や浸水深が減少しています。

次ページに、特に浸水面積や浸水深が減少した地域の拡大図を掲載しています。

# 神田川流域浸水予想区域図(拡大図)

この拡大図は、神田川流域の中で特に浸水面積や浸水深が減少している地域です。

左図が改定前(対象降雨: 1時間114ミリ)、右図が改定後(対象降雨: 1時間153ミリ)のシミュレーション結果です。

## 【豊島区目白・雑司ヶ谷・東池袋周辺】

豊島区目白・雑司ヶ谷周辺では、第二雑司ヶ谷幹線(直径2.8m:延長約1.2km)が平成13年に完成し、順次、第二雑司ヶ谷幹線への切替え(枝線整備)を実施してきました。

また、豊島区東池袋周辺では、1時間75ミリ降雨に対応する下水道整備が平成20年に完了しました。



## 【練馬区中村周辺】

練馬区中村周辺では、貯留管(直径3.0m~4.0m:延長約2.4km)が平成24年に完成しました。貯留容量は約29,000m<sup>3</sup>あります。(学校のプール約100杯分に相当)



## 【渋谷区幡ヶ谷・本町周辺】

渋谷区幡ヶ谷・本町周辺では、第二十二社幹線(直径2.6m~3.5m:延長約3.5km)が平成13年に一部完成し、暫定貯留を行うとともに、順次、第二十二社幹線への切替え(枝線整備)を実施してきました。平成28年には神田川への吐口を新たに整備し、雨水流出量の増大に対応しました。

